

1. 文芸特殊研究Ⅰの岩崎の担当授業

(ア) 授業日程

4月16日(火)	①人間と文芸(1) — 「共感覚」から考える
10月1日(火)	②人間と文芸(2) — 「言語障害」から考える
11月26日(火)	③人間と文芸(3) — 「人工言語」から考える
12月24日(火)	④人間と文芸(4) — 「和歌・歌合」から考える

(イ) 文芸に関する「特殊」な研究(岩崎)

①「共感覚」	定型の五感による文芸	共感覚による文芸
②「言語障害」	定型発達者・言語健常者による文芸	言語障害者による文芸
③「人工言語」	自然言語による文芸	人工言語による文芸
④「和歌・歌合」	現代日本語による文芸	日本古語による文芸

2. 人間と文芸(1) — 「共感覚」から考える

(ア) 共感覚の紹介(五感との比較)

感覚器官	感覚対象	感覚名称
目(眼)	電磁波(可視光線)	視覚(色覚、形態覚)
耳	音波	聴覚
鼻	化学物質	嗅覚(臭覚)
舌	化学物質	味覚
皮膚(身体)	物理的刺激	触覚(体性感覚)

(イ) 共感覚の実演

(ウ) 共感覚研究の歴史

- ① 世界各地の文明ごとの扱い: ギリシャ・ローマ時代、非西洋の原住民、日本の芸道(和歌、香道)
- ② 欧米の大国の白人を中心とする人間観: 帝国植民地主義、優生思想、人種差別(類人猿、サル、タコ、牡蠣)
- ③ 人権活動の隆盛: 発達障害、アスペルガー症候群、LGBT、共感覚
- ④ 社会が特殊知覚・能力を持つ子供を対等に支援(欧米): サヴァン、ギフテッド、タレンテッド、飛び級などの教育制度
- ⑤ 違法薬物と共感覚: LSD、シロシビン、シロシン、メスカリン、MDMA など
- ⑥ スピリチュアル世界、新宗教への利用(日本): 個人の疑似共感覚者から中・大規模教団へ
- ⑦ 国家プロジェクトへの利用(日本): 共感覚事業・感性事業への公金・税金投入、原義との解離(「共感覚イノベーション」)、国家・政府と国民・現場の解離、発達障害児などをめぐるいじめ・自殺

→ 文芸・文学にできることは何か

(エ) 共感覚から考える人間と文芸(別紙を使用)

◆ 岩崎純一学術研究所 (Iwasaki Junichi Academic Institute, IJAI)

ウェブサイト: <https://iwasakijunichi.net/> (右 QR コード)

メール(問合せ、質問、臨時提出先): [iwasaki-j@iwasakijunichi.net](mailto:iwasaki-j@iwasakijunichi.net)

(本資料は、授業の数日から一週間後に岩崎純一総合アーカイブ・『岩崎純一全集』に収録し、サイトに掲載。)

